
魔法戦士リリカルガンダム

紅優也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法戦士リリカルガンダム

【Nコード】

N2537BA

【作者名】

紅優也

【あらすじ】

様々なガンダムキャラクターがリリカルなのはの世界を改変しようとする転生者を叩きのめすお話です。

プロローグ？（前書き）

スタート・インパルス
始まりの激情

プロローグ？

シンSIDE

「う……ん……？」

あれ……此処は……何処だ？」

俺『シン・アスカ』は周りが何故か『エターナル』の私室では無く何処かの町の路地裏なのに驚いているけど……あれ？

「俺……何で『子供』になつてんだ？」

近くの水溜まりに寄つて顔を見るとそこには紛れもなく九歳になつた俺がいた。

「……はあ……金も無い、情報も無い、身寄りも無いの無い無い尽くし……？」

何だあれ？」

俺は起きた場所の直ぐ近くにキラキラ光る宝石を見つけてそれを手にとつて見る。

「すっげー綺麗だな……よし！」

此れを売つて当座の……「ちょっと待て……」「うわ……？」

俺が声に振り向くとそこには銀髪に碧と深紅のオッドアイの今のところの同い年のガキがいた。

「てか、何のようだよ……！」

「うるせえ！黙つて俺にその宝石を寄越しやがれ……！」

「はあ！？何でお前の命令を聞かなきゃいけないんだよ……！」

大体この宝石は俺の生命線だ、絶対に渡せるか！

「あんだと……？神に選ばれた最強転生オリ主の俺に逆らうのか？
……は？何を言ってるんだこいつ頭おかしいんじゃないのか？
最強転生オリ主とかマジ笑えんだけど。」

「お前頭に蛆虫でも湧いてんのか？」

最強転生オリ主とか漫画や本の二次創作の話だけにしとけての。」

「うるせ……あ、あの！」「お、来たか。」

俺達が声に振り向くとそこには金髪にルビーみたいに綺麗な深紅の瞳の女の子とオレンジ色の毛皮が綺麗な狼がそこにいた。

「あの……その宝石をくれませんか？」

女の子が俺の手に持っている宝石を指差して語り掛けてくる。

うーん……これは俺の生命線だからなあ……

「騙されるじゃねえ！」

そいつはその宝石を持ち逃げする気だぞ！」

「んな！？」

俺は俺を指差しながらでつち上げを言っている最強転生オリ主（笑）に驚愕した。

……！？こいつ……あの子に対する目……確実にあの子を性欲の対象にしか見てねえ！

「騙されるな！そいつの目をよく見ろ！お前を性欲の対象にしか見てねえ！」

俺は女の子に慌てて警告する。

「え、えと……『アルフ』……どっちが正しいんだろっ？」

アルフ……それがあの狼の名前なのか？

「……………」

アルフが俺と最強転生オリ主（笑）に近づき……げ！？

「お、俺！？」

ヤバイ、殺される！

「（さあ、死にやがれモブキャラ！）」

「ふん、あたしが殺すのはあんたじゃないよ。」

あたしが殺すのは……こいつだあああああああ……！」

次の瞬間アルフが喋り最強転生オリ主（笑）を爪で真つ二つにした。

「ふん……こいつが『フェイト』をいやらしい目で見ていた事くらいあたしにはお見通しだよ。」

アルフが驚愕している俺を無視するかのように話す。

えと……狼が……喋った？

「あの……それを……くれませんか？」

俺がアルフの事で悩んでいるとフェイト（多分この子の名前だろう）が涙目＋上目遣いで覗き込んできた。

うぐ……どうしよう……

「………解ったよ、あんたの捜し物ならあんたの物だ。」

俺は結局フェイトに宝石を渡した。

さてと………退散しますか………

「！！？危ない！」

「おわ！？」

退散しようとした俺の首根っこをフェイトに掴まれ……さっきまで俺の立っていた場所に凄い量の弾丸やら剣やら槍やら風やら炎やら……色んな物が打ち込まれた。

「『Xバーナー』!」

「!?!?しま……うわあああああああ!?!?」

「フエイ……」「うらあ!」がふ!?!?」

奴等が協力を開始した途端にフエイトもアルフも苦戦に立たされる。こいつら……自分の欲望を叶える為に……その欲望の対象すらも傷付けるのかよ! 　ふざけるな! 二人はお前達の道具じゃない!

『お怒りですか? マスター。』

!?!? 誰だ!

『私の名は『インパルス』。』

い、インパルス!?!?

何で俺が乗っていた機体が此処に!?!?

『今はどうでも良いです。』

マスターはあの二人を救いたいですか?』

……救いたい。

「何かさフエイトやアルフとはあって数分だけどあの二人の目を見て思ったんだ……『自分に何か出来ないかな……』って。」

『そうですか……ならば『魔法の言葉』を教えてあげましょう。』

「!?!? 嘘だろ!?!? 何でモブキャラが『デバイス』持ってんだよ!?!?」

『魔法の言葉……その名は『セットアップ』。』

セット……アップ……

「ああ……やってやるさ！
インパルス、セットアップ！」
そして俺の体が粒子に包まれ右手にビームライフルが出現し左手に盾が出現する。
更に背中にはバーニアが現れ装備される。

これは……
『そう、マスターの予測通りこれは『フォースシルエット』です。』
やっぱね。

「行くぜ！」

「ち！相手はモブキ……」「いちいちモブキやらって言うなよ！五月蠅いんだよ、あんたは！インパルス、『ソードシルエット』を展開！連結させて……』『約束されし勝利の剣』^{エクスカリバー}！」は！？ギヤアあああああああああああ！？」

次の瞬間俺はリーダーっぽい奴に接近しソードシルエットを展開、更に連結させて大剣にして頭の中に浮かんだキーワードを言う……
…凄まじい光と共に奴の体は塵も残さず消え去った。

「……ひ、ひいいいいいいいい！?!?」「……」
指揮官が消え去ったのを見ると残りの奴等は恐れをなして逃げ去った。

何だったんだあいつら？

「はあ……何とか生き残ったか……」
「だ、大丈夫？」

フェイトが心配そうに俺を覗き込んできた。

「ああ、何とかな。」

……えっと……あんたの名前は何？」

シン・アスカはまだ知らない。

この少女フェイト・テスタロッサが生涯の伴侶になる少女だと言う事を……

そしてこれが自分と同じようにこの世界に来たもの達と共に神に生み出された異分子《転生者》を削除する戦いの始まりだと言う事を……

プロローグ？（後書き）

如何でしたか？

次回は『00』の三兄妹がなのはに出会います。

次回『三つの誓い』《トリニティ・ハート》『
お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2537ba/>

魔法戦士リリカルガンダム

2012年1月6日15時52分発行